

## 平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成27年4月21日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

|      |    |      |    |      |    |      |
|------|----|------|----|------|----|------|
| 第2学年 | 国語 | 236人 | 社会 | 235人 | 数学 | 235人 |
|      | 理科 | 235人 | 英語 | 235人 |    |      |

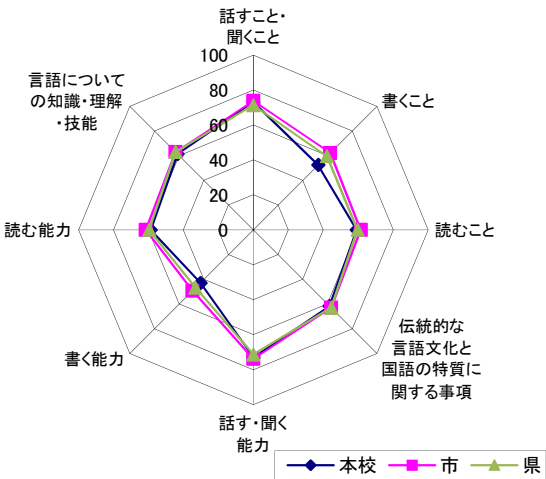
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 73.0 | 73.8 | 71.3 |
|     | 書くこと                 | 52.5 | 62.2 | 59.6 |
|     | 読むこと                 | 59.2 | 61.5 | 59.6 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 61.7 | 62.9 | 63.1 |
| 観点  | 話す・聞く能力              | 73.0 | 73.8 | 71.3 |
|     | 書く能力                 | 42.9 | 49.2 | 46.8 |
|     | 読む能力                 | 58.8 | 61.5 | 59.6 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 61.3 | 62.9 | 62.9 |



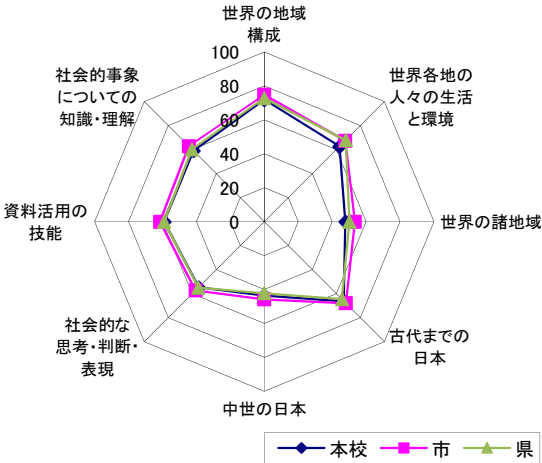
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分                | 本年度の状況                                                           | 今後の指導の重点                                           |
|----------------------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | ○「出された意見をより良くするための意見を適切に述べる事ができる」の項目が県平均より若干高い。他の項目はほぼ県平均と同等である。 | ・話し合いの進め方や自分の意見をどう話すか工夫させる。                        |
| 書くこと                 | ●「概要を明確にして自分の意見を書く」項目で県平均、市平均ともに下回った。自分の考えを簡潔にまとめることが苦手である。      | ・短い作文を繰り返し、自分の考えを簡潔に述べられるようにしていく。                  |
| 読むこと                 | ○県平均を大きく下回っている項目はなく、比較的良好な分野である。                                 | ・言動から人物の心情を考える、前後の文脈から概要を捉えるといった基本的な読む能力を伸ばしていきたい。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ●漢字の書き取りに関して県平均を下回る項目があった。1年生までに学習した漢字について覚え方にムラがある様子が見られる。      | ・既習領域の漢字の復習を繰り返して行っていく。                            |
|                      |                                                                  |                                                    |

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 世界の地域構成         | 71.8 | 74.8 | 72.8 |
|     | 世界各地の人々の生活と環境   | 62.6 | 67.5 | 67.8 |
|     | 世界の諸地域          | 47.8 | 53.4 | 50.2 |
|     | 古代までの日本         | 66.3 | 68.0 | 64.6 |
|     | 中世の日本           | 43.5 | 45.8 | 42.2 |
| 観点  | 社会的な思考・判断・表現    | 54.7 | 57.3 | 55.0 |
|     | 資料活用 of 技能      | 59.0 | 61.4 | 59.1 |
|     | 社会的事象についての知識・理解 | 59.1 | 62.9 | 60.3 |



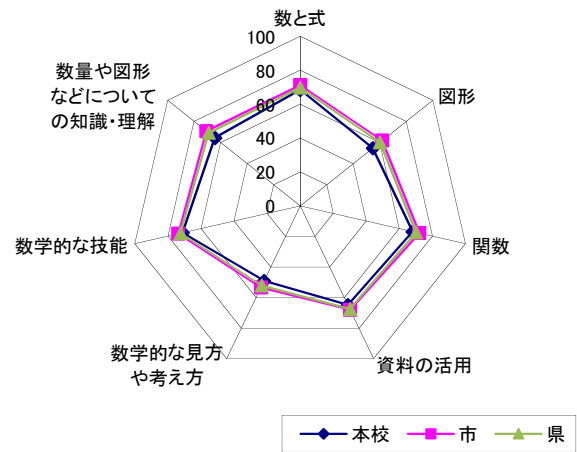
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分         | 本年度の状況                                                                       | 今後の指導の重点                                                                         |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 世界の地域構成       | ○世界の海洋の分布や様々な世界地図の活用について理解が進んでいる。<br>●赤道についての理解が不足している。                      | ・地球儀を活用した世界の位置の表し方についてもう一度確認し、用語を理解させたい。                                         |
| 世界各地の人々の生活と環境 | ○世界各地の雨温図の読み取りができている。<br>●世界各地の主食の分布、生活と環境、住居についての理解が不足している。                 | ・気候の違いからくる、衣食住の違いについて、自然環境に着目して理解できるよう指導する。                                      |
| 世界の諸地域        | ○オセアニア州についての理解が進んでいる。<br>●ヨーロッパ州の国々の名称と位置、EUについての理解が定着していない。                 | ・ヨーロッパ州の主な国の位置の確認から始め、ヨーロッパの文化的つながりがEUへとつながっていることを確認させ、EUの内容をもう一度理解できるようにしていきたい。 |
| 古代までの日本       | ○全体的に知識があり、理解がなされている。<br>●資料の読み取りの力がやや低いが、それは弥生時代、縄文時代等の特色が定着不十分だと考えられる。     | ・特に縄文時代から古墳時代までの時代の流れと特色についての理解を深めさせたい。                                          |
| 中世の日本         | ○全体的に知識があり、理解がなされている。特に鎌倉時代への理解が深い。<br>●中世の内容ではなく、年代の表し方で、特に世紀の表し方が理解できていない。 | ・全体的によく理解がなされているが、他の時代同様、その時代の特色と、政治や社会の流れについて理解できるよう、指導を繰り返していきたい。              |
|               |                                                                              |                                                                                  |

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                | 本年度  |      |      |
|-----|-------------------|------|------|------|
|     |                   | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と式               | 68.5 | 71.2 | 69.8 |
|     | 図形                | 54.7 | 61.9 | 60.2 |
|     | 関数                | 68.0 | 72.1 | 70.1 |
|     | 資料の活用             | 64.8 | 68.0 | 67.6 |
| 観点  | 数学的な見方や考え方        | 49.1 | 53.4 | 52.1 |
|     | 数学的な技能            | 71.2 | 73.8 | 72.5 |
|     | 数量や図形などについての知識・理解 | 64.4 | 70.8 | 69.1 |



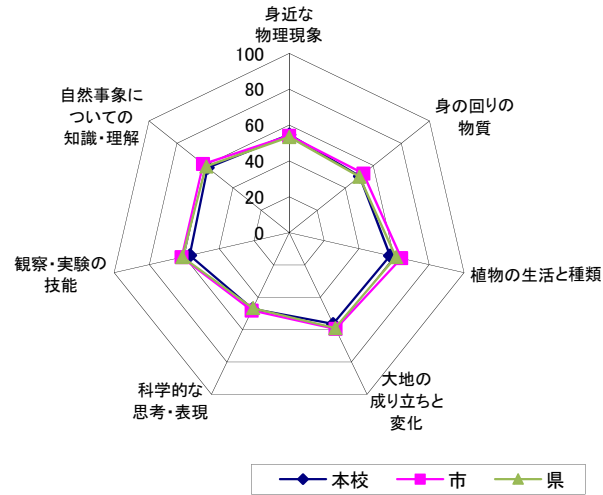
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                 | 今後の指導の重点                                                                            |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式   | ○正負の数の計算に関しては概ね理解できている。<br>●文字式を苦手とする生徒が多く、特に文章から1次方程式を立式することができない生徒が多い。               | ・文字の有効性を理解させ、数と同じように文字を活用していけるように問題演習をさせていく。                                        |
| 図形    | ○作図や回転体の投影図に関しては、概ね理解できている。<br>●球と円柱の体積を求める問題や、円柱の展開図から側面積を求める問題など、計算を要する問題ができない生徒が多い。 | ・面積や体積を求めるためには、図形を正しく観察することが必要になる。具体物などを用いて、正しい見方を指導していく。                           |
| 関数    | ○比例や反比例の関係については概ね理解できている。<br>●比例の式から、比例のグラフをかくことや、文章問題を苦手とする生徒が多い。                     | ・様々な問題でグラフを活用して、視覚的に比例・反比例や1次関数を考えていく力を養っていく。<br>・文章問題を読み取る読解力を養えるよう、読書の必要性を指導していく。 |
| 資料の活用 | ○度数分布表の見方や、表の活用に関しては概ね理解できている。<br>●資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができない生徒が多い。       | ・説明することなど表現力を養うために、習熟度別学習やグループ学習の中で、話し合い活動を積極的に進めていく。                               |
|       |                                                                                        |                                                                                     |

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 身近な物理現象        | 54.7 | 54.0 | 53.3 |
|     | 身の回りの物質        | 50.4 | 52.9 | 50.0 |
|     | 植物の生活と種類       | 57.7 | 64.1 | 61.1 |
|     | 大地の成り立ちと変化     | 56.5 | 59.6 | 59.1 |
| 観点  | 科学的な思考・表現      | 47.2 | 48.2 | 46.7 |
|     | 観察・実験の技能       | 56.8 | 61.5 | 61.1 |
|     | 自然事象についての知識・理解 | 58.2 | 61.4 | 59.2 |



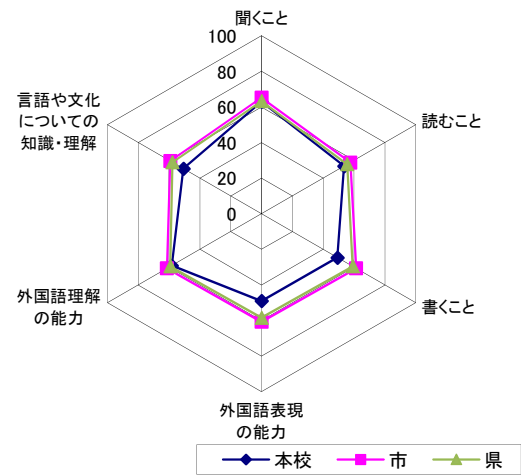
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分      | 本年度の状況                                                                                                     | 今後の指導の重点                                                                                                                         |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 身近な物理現象    | <p>○『光や音』の知識・理解や科学的な思考は、県平均よりも約10ポイント上回る。</p> <p>●『力と圧力』では県平均と比べ5ポイント低く、水圧のはたらきの設問では正答率が4割程度である。</p>       | <p>・引き続き『光や音』においては科学的な思考力の向上に指導の重点を置き、『力と圧力』では生徒の力に対する概念の形成を図れるように実験の工夫や科学的な思考力の向上に努める。</p>                                      |
| 身の回りの物質    | <p>○『物質のすがた』では県平均と比べ7ポイント高く、密度はよく理解できている。</p> <p>●質量パーセント濃度の設問は正答率が県平均と同程度であるが、質量パーセント濃度の考え方は捉えきれていない。</p> | <p>・『水溶液』においては溶解度や質量パーセント濃度に対する理解を高めるために実験を通して水に溶ける溶質の量に注目させ、濃度を求めていくことを考えさせる場面を多く設定するようにする。また『物質のすがた』については前年度の指導の重点を継続していく。</p> |
| 植物の生活と種類   | <p>○『植物の体のつくりとはたらき』、『植物のなかま』、『生物の観察』の各分野で7割程度が正答を導いている。</p> <p>●県平均より3.4ポイント低く、顕微鏡の設問は県平均より10ポイント程度低い。</p> | <p>・顕微鏡の使い方などの実験操作が伴うものや、蒸散のしくみについては蒸散量の求め方などに重点を置いて指導していく。</p>                                                                  |
| 大地の成り立ちと変化 | <p>○『地層の重なりと過去の様子』の化石の設問では県平均より9.2ポイント高い。</p> <p>●県平均より2.6ポイント低く、『火山と地震』では、県平均よりも10ポイント程度低い。</p>           | <p>・『火山と地震』では火成岩全体の組織についての理解とともにマグマとの関わりや火山や地震についての基本的な事項をきちんとおさえられるように繰り返し学習する。</p>                                             |
|            |                                                                                                            |                                                                                                                                  |

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 聞くこと            | 62.9 | 65.2 | 63.2 |
|     | 読むこと            | 53.6 | 57.6 | 55.6 |
|     | 書くこと            | 49.2 | 61.4 | 59.2 |
| 観点  | 外国語表現の能力        | 49.0 | 60.7 | 58.4 |
|     | 外国語理解の能力        | 58.2 | 61.3 | 59.2 |
|     | 言語や文化についての知識・理解 | 50.7 | 59.2 | 57.8 |



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                 | 今後の指導の重点                                                                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 聞くこと  | <p>○まとまりのある英文を聞いて、その概要を日本語で説明することができる。</p> <p>●対話文を聞いてそれを英文で表現したり、詳細を聞き取る力が不足している。</p>                                                 | <p>・ALTの指示を聞いて、その英文を理解させる場面を増やす。また、聞き取り問題への取組では、用意された質問以外のことについても補充質問を用意して、細かな内容についても聞き取らせるよう心がける。</p>                  |
| 読むこと  | <p>○前年度よりも、ポイントがやや上昇した。これは、まとまりのある英文を読んで理解し、詳しい内容を日本語で伝えることができる程度できたことによると思われる。</p> <p>●英文を読むことを苦手とする生徒は、比較的平易な問題についても理解することができない。</p> | <p>・ある程度の文法事項は理解できていると思われるが、語彙力が不足している生徒が多いようである。授業中、英文の意味の確認や重要単語の指導、単元末テストの利用等で語彙力の不足する生徒にも少しずつ語彙力がつくように指導していきたい。</p> |
| 書くこと  | <p>○前年度よりも、ポイントがやや上昇した。これは、慣用的な表現について理解している生徒が多いことによると思われる。</p> <p>●英文の構造の理解が不十分なため、英文を正しく書く事ができない生徒がいる。また、まとまった内容を英文で表現するのが苦手である。</p> | <p>・英語で自分が伝えたい事を表現する機会を増やし、積極的に英語を使う場面を増やすよう心がける。また、慣用表現の定着は、授業中での表現活動も影響していると思われるので、今後も続けていきたい。</p>                    |
|       |                                                                                                                                        |                                                                                                                         |

## 宇都宮市立若松原中学校 第2学年生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習について「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」「1か月に読む本の量」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、授業の目標が示されている」「授業を集中して受けている」「友だちの前で自分の考えや意見を発表する事が得意だ」などの質問に対する肯定的回答の割合が、宇都宮市、栃木県に比べて高い。学校全体で取り組んでいる自主学習のすすめやグループ活動を通して、自分の考えを深める取組の成果が表れていると思われる。

○生活について「早寝、早起きを心がけている」「食事のとき、好ききらいをしないで食べている」「見てはいけないサイトにつながらないようにしていますか」「時間をじょうずに使うことを、心がけている」などの質問に対する肯定的回答の割合が、宇都宮市、栃木県に比べて高い。これは携帯電話の使い方の指導など、学校と家庭が協力して取り組んでいる成果が表れていると思われる。「1日当たりのテレビ・ビデオを見る時間」や「1日当たりのテレビゲーム・携帯式のゲームをする時間」や「1日当たりの携帯電話使用時間(ゲームをする時間は除く)」でも宇都宮市、栃木県の平均と同じか、少ない傾向が見られる

●学習について「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の予習・復習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」などの質問に対する肯定的回答の割合が、宇都宮市、栃木県に比べて低く、「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか(学習塾や家庭教師も含む)」の質問で宇都宮市、栃木県に比べて学習時間が少ない回答が多かった。宇都宮市、栃木県に比べると肯定的回答の割合が低くなるが、肯定的回答の割合そのものは高い値になっている。このことから、学校と家庭が連携して、家庭学習の習慣の身に付いていない生徒への支援と家庭学習の時間の確保に取り組めるよう努めていきたい。

●生活について「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「家の人と学校でのできごとについて話をしている」などの質問に対する肯定的回答の割合が、宇都宮市、栃木県に比べて低い。宇都宮市、栃木県に比べると肯定的回答の割合が低くなるが、肯定的回答の割合そのものは高い値になっている。しかし、これからの学校生活を通して、自己肯定感が向上するよう望ましい友人関係・職業観を身に付けられるように努めていきたい。